



広報

下之郷

No.100

発行日 2014. 9. 15

編集 発行 郷づくり広報部会

発行責任者 下之郷区長

＝自然を愛し 人を愛する
豊かな心を 育てよう＝



少年少女スポーツ大会完全優勝 7. 27

目次:

下之郷区20年の歩み	1
//	2
//	3
トウモロコシの収穫/夏祭り	4
子どもたちの夏	5
戦没者功労物故者追弔会/人権よもやま話⑩	6
短歌/漢字クイズ/ちょっとひとこと/懐かしの風景②	7

私たちの区

2014. 8月1日現在

*戸数	235戸
*人口	男 355人
	女 381人
	計 736人

下之郷区二十年の歩み

下之郷広報が創刊された平成6年は、大干ばつ的一年でした。早い梅雨明け後



降雨無く、犬上ダムの貯水量が激減、水不足のためイノ町地先では枯死田も出る惨状となりました。

この苦しい体験をふまえ、新たにイシハラドに灌漑用井戸が作られたのでした。

平成10年頃は、郷づくりのハード事業が活発に展開された時期でした。

平成10年3月には二階堂宝蓮院址石碑がイシハラドに建立されました。また、家庭排水の浄化のた



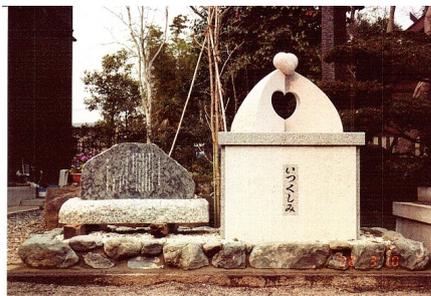
めに簡易浄化装置を作って区内河川に設置されました。

区内の道路河川等の改修工事も次々と着工されていきました。

平成10年には金堂川の改修工事、平成11年には中小路道、竹ノ尻川の改修工事が行われています。下水道の幹線工事もこの年に完成しています。



平成14年5月には百年後の子孫に伝えようと桂城神社境内 タイムカプセルが埋められました。また、ふれあい公民館横に手作りの住宅案内板も設置されました。



さらに、歴史部会編の下之郷の歴史がこの年、刊行されています。



平成13年から県の近隣景観形成事業に取り組み、平成15年には地域景観と調和するごみステーションを区内4カ所に設置しました。これによって、カラス等にゴミを荒らされる心配もなくなりました。



平成14年度から2年間、
県の助成を受けて男女共
同参画モデル地域事業」に
取り組み、住民アンケート



環境整備が中心だった郷
づくり活動も、徐々にソフ
ト事業に重心が移っていき
ます。
平成10年に発足したひ
まわりの会は、高齢化社会
に対応するものでした。ポ
ランテアの運営で、80歳
以上のお年寄りを招いて楽
しい活動を展開する取り組
みはその後途切れることな
く今口に至っています。



の実施や研修会が開かれま
した。男の料理教室が開
催されるようになったのも
この頃からでした。

雨の日の朝、幼稚園の子ど
もたちが安心して通園バス
を待てるような雨宿りの場
所がほしいという親の願い
に答え、平成17年にはふれ



子育て支援の取り組みも
いろいろ試みられるよう
になりました。
子どもたちに農業体験
をさせようとさつまいも栽
培の体験活動が平成15年
度に行われています。
平成16年には、南池跡地
を埋め立て、「ちびっこ広場」
が作られました。

平成18年頃にな
ると、区の「少子高
齢化」が現実の問題
としてクローズアッ
プされるようにな
ってきます。人口
減少がグラフでも
明らかにになり、区民
の中にも危機感が
広がっていきまし
た。



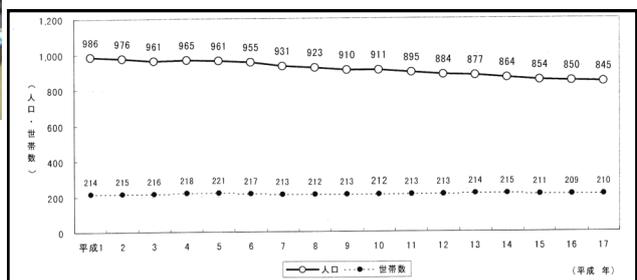
この年の対話集会

のテーマは高
齢者の人権と
郷づくり」で
講師の北川氏
は、お互いが
助け合う仕組
みを今から作っ
ていくことが
重要だ。」
と話されてい
ます。



あい公民館横にバスス
テーションができました。

【下之郷の人口の推移】



農家が減少し、先祖から受け継いできた美田を集落営農の形で守っていくこと、平成18年2月には「下之郷営農組合」が設立されました。



その後、「特定農業団体」を経て平成23年度には「農事法人きらり下之郷」の設立へとつながり、今日に至っています。

また、平成19年度から、集落の田んぼを住民主体で守っていくことをめざし、国の補助金事業「農地水農村環境保全向上活動支援事業」(環境保全隊)の取り組み

みが始まりました。



用排水路の点検、畦畔にヒメイワダレソウの定植、竹炭による水質浄化、水

棲生物の生息状況調べなど非農家、小中の子どもたちも巻き込んだの活動となり、現在その第二期に入っています。

少子高齢化が進む中、お年寄りと子どもたちとの交流の場も積極的に設けられ

るようになってきました。以前は子どもたちだけでやっていたラジオ体操にも高齢者の方が参加されるようになってきました。ひまわりの会でも子どもたちとの交流の機会が作られるようになりました。



さらに、平成22年度からはプラン13の取り組みも始

まり、地域全体で子育て支援をしていく形もできてきました。



区の防災についての取り

組みは、平成17年度の防災マップづくりをきっかけに、区の自主防災組織が作られ、平成20年からは区民総参加の防災訓練が実施されるようになりました。



ますます少子高齢化していく当区においては、こうした様々な住み良い郷づくりの取り組みを、今後も区民一体となって、力強く進めていくことがぜひ必要です。

以上、二十年の歩みをまとめてみました。





トウモロコシの収穫



7月19日(土)、イベント部会で丹精込めて育ててきたトウモロコシを子どもたちと一緒に収穫しました。台風の被害も免れ、きれいでおいしいトウモロコシがたくさん採れました。

イベント部会のトウモロコシはおいしい。という評判が行き渡り、区内販売はあつというまに完売となつてしまいました。次年度は希望される方すべてにお届けできるよう販売方法を改善したいと考えています。

第31回甲良町夏まつり

が38度にもなる猛暑の中でしたが、部員が交替しあつて、お客さんの対応にあたりました。

7月26日(土)は、甲良町夏まつりでした。

下之郷からは、イベント部会の焼きとうもろこしと木造り河川景観部会のスパーボールすくいが出店しました。

日中の最高気温



夜の総踊りには老人クラブの方々も参加いただき、会場一杯に踊りの輪が広がりました。最後の花火、抽選会の頃までお客さんが絶えませんでした。



子どもたちの夏



ラジオ体操とともに始まった子どもたちの夏休み。
 この夏、子どもたちはどんな体験をしたのでしょうか？
 ダイジマストにまとめてみました。



ひまわりの会との交流



7月23日(水)、プラン13の企画で、ひまわりの会と

子どもたちの交流会が開かれました。下之郷の歴史を教えてもらったり、お年寄りとのふれあいゲームをやったりしました。
 最後に、6年生による紙芝居の発表もありました。



少年・少女スポーツ大会



7月27日(日)、甲良中体育館で少年少女スポーツ大会が行われ、下之郷チームが1位から3位まで独占するという快挙を成し遂げてくれました。連日スポーツ公園で練習を積んでいた成果が実を結び、保護者も大喜びでした。

地蔵盆

8月23日(土)は地蔵盆でした。昼間はよかったです。夕方、ものすごい雷雨



となり、ふれあい公民館に避難する事態になりました。それでも子どもたちは元気いっぱい楽しんでいました。



戦没者・功勞物故者追弔会



戦後69年目を迎え、今年も戦没者追弔法養が墓地で営まれました。

8月15日早朝、遺

族、区役員が参列し、三ヶ寺の住職様による読経の中、し

めやかに参列者の

焼香が

行われ

まし

た。

区長さんは挨拶の中

で、世界各地では現在も戦争が行われている。国内では、佐世保の殺人事件など考えられないようなことがおきている。憲法解釈も変わるうとしてい。今日を機会にもう一度恒久平和の誓いを新たにしたい。」と述べられました。墓地法要のあと、引き続き西応寺で

人権よもやま話 ⑩

「ユーロサトリ」

みなさんこんにちは、また今年も8月がやってきました。そして今年も15日にお墓とお寺で下之郷の戦没者と功勞物故者の法要が粛々と営まれました。

西應寺住職のお話によると、仏教会では戦没者の追弔会は、50年を契機に終了しては？との意見も出たそうですが、悲惨な戦争を忘れないためにも今後も継続することに落ち着いたそうです。そして今年で終戦から69年。区でも戦没者と功勞物故者の法要が、平和の中で無事に挙行されました。あらためてこの平穩な毎日に感謝したいものです。

さて、話は変わりますが皆さんは「ユーロサトリ」ってご存知ですか？ユーロサトリとは、2年に一度ヨーロッパで行われている武器の展示会、見本市のことです。いちおう、防犯防災テロ対策が主眼とはなっていますが…。

今年も、6月にパリでユーロサトリが開催されました。私自身、何も知らなかったのですが、これをユーロアで見たとくとも驚きました。戦車、装甲車、ピストルや機関銃が整然と並べられ、軍服らしきいでたち

の多くの人が行きかい、中には床に這いつくばって試みに機関銃を構える若い兵士らしき人の様子が放映されていました。中でもとてもシブかったのは、まるでデパートの化粧品売りの口紅かと思いがうような、多くの銃弾がさりげなく展示されていたことです。

そしてこの展示会に今年初めて日本のパビリオンが設けられました。過去、日本企業は武器輸出三原則の制約があつて、電子部品等を細々と展示していたそうですが、今回は防衛にかかわる展示ということで大手企業13社が出展しています。

今年4月武器輸出三原則に代わつて防衛装備品移転三原則が整備され、武器輸出に関する制約が緩和された影響も大きいものと考えられます。武田防衛副大臣が会場を視察に訪れ、各企業を激励する姿も併せて放映されていました。

また、ここを訪れたジャーナリ

ストの中には、会場でみんなが持っているカメラはほとんどが日本製。ドイツの戦車が世界各国で使われていない。日本も早くそうならなくてはならない。それが、世界の平和につながる。」と強い口調で語っていました。

はたしてそうでしょうか？皆さんも考えてみてください。たしかに、日本製の戦車や軍艦、戦闘機が、カメラのように世界で認められるようになれば、日本はきっとお金持ちになることができると思います。皆さんの財布もおおいに潤つことでしょう。でも、日本だけがお金持ちになれば、バブル時代のように世界からうとまれる存在になりはしないでしょうか？想像してみてください、どれだけ財布が潤つたとしても、日本が作った銃弾に倒れる人がどのようか…。

今回は、ごわずかしい話で申し訳ありません。とにかく、今年も無事に平和の中、下之郷の追弔会が挙行されたこと、そして、いま毎日が平穩におくれることに心から感謝したいと思います。

甲良町人権問題啓発指導員

藤居 桂三

